掲載日:2012年03月15日，面名:対社，記事ID:KIJ20120315_A0024000100753003
(C)十勝毎日新聞社

絆の証 ③ 3.11 1年

帯広・石巻のデイサービス

ヒマワリの大輪 交流で開花

スタッフが現地訪れ花壇製作

「自分たちが育てて植えた花がここまできれいに咲いたとは。心から花壇を作って良かったと思った」

帯広市内のデイサービス運営会社「花」の奥村季晋さん(31)は、東日本大震災で被災した宮城県石巻市の「デイサービスセンターはまぎく」から送られてきた写真を見てこう話す。写真にはヒマワリやマリーゴールドとともに「はまぎく」利用者の笑顔が写っていた。

「花」が運営する「デイサービスさくら」では、利用者らが土作りから丹精して花の苗と種を育てた。昨年7月、奥村さんらスタッフ3人がそれを運んで石巻市を訪れ「はまぎく」などで花壇を作るボランティアに取り組んだ。写真は「はまぎく」の礼状とともに届いた。

石巻市から届いた花壇の写真を持つ小椋さん（前列左）ら「さくら」の利用者

はまぎく生活相談員の谷津淳子さん(38)は「津波で潮をかぶった木々や花は枯れ、周囲は茶色い風景。その中で花壇だけはいろんな種類の花が咲いてカラフルになり、きれいだった」と振り返る。

はまぎくでは震災当時、利用者はすぐ高台に避難して助かった。津波も駐車場まで押し寄せたが、建物の被害はなかった。

だが、自宅などにいた利用者9人が犠牲に。その後の避難や移転で、約50人いた利用者も現在は24人と半分にまで減った。

谷津さん自身も自宅1階が津波で流され、避難所とテントで避難生活を送り、昨年7月半ば自宅2階に戻った。はまぎくも避難所だったため、デイサービスを再開したのは8月から。花壇はちょうどこのタイミングに作られた。

今年も種植え咲かせたい

谷津さんは「人に会うと震災の暗い話ばかり。花が育って咲くと、私も利用者もやっぱり笑顔になり、気分転換できた」と話す。

両施設の交流はその後も続き、昨年12月には「さくら」からクリスマスリースが贈られた。今年秋、はまぎく利用者を十勝に招き、高齢者向けファッションショーに参加してもらおうと検討を進めている。

さくら利用者で花苗作りに取り組んだ小椋登さん(84)は「震災から1年たち、支援の持続が大事」とし、高橋良子さん(72)も「ぜひ会って体験を聞きたい」と直接の交流を期待する。

帯広から届けられたヒマワリは昨年秋、大輪の花をいくつも咲かせた後、たくさんの種を育んだ。1粒1粒の種は「はまぎく」と「さくら」を結ぶ絆でもある。「もう少し暖かくなったら、大事な思い出の種を植えてきれいに咲かせたい」。谷津さんは、今年もヒマワリが被災者に笑顔をもたらし、少しずつ前に進むための支えになると信じている。

（井上朋一）